

会議録	日時 令和7年2月25日(火)14:00~15:00	場所 沼津フジビューホーム 地域交流室	書記・記録 下田 美鈴
会議名	第2回 地域密着型 運営推進会議		
出席者	A様（門池地区連合自治会長） B様（柏葉尾地区自治会） C様（担当民生委員） D様（ご利用者ご家族様） E様（ご利用者ご家族様） 河野 義文（駿河厚生会 理事長） 中川原 優子（かどいけ地域包括支援センター職員） 廣瀬 麻美（沼津フジビューデイサービス認知症対応型生活相談員） 下田 美鈴（同認知症対応型介護職員）		
式次第	資料参照のこと		
議題	内 容		
1. 開会	廣瀬：令和6年度の2回目、認知症対応型さくらの運営推進会議を始めます。 よろしくお願いします。		
2. 出席者紹介	出席者の方に、それぞれ自己紹介を頂いた。		
3. 利用状況 利用実績の報告	別紙参照 廣瀬：利用者の人数は通年と変わらない人数になっている。最近は途中から60代、70代の方が増えてきた。現在は60代1名、70代5名、80代3名、90代2名が利用されている。 介護度の平均は2.2くらい、男女比率は4:7で女性が多めとなっている。		
4. 活動状況報告	廣瀬：コロナが落ち着いたところでイベントを行い、保育園との交流が増えている。 スイカを育ててスイカ割りのレクリエーションを計画をしていたが、畑に入った業者の手違いで、スイカが刈られてしまった。急遽小さなスイカを購入し、皆でスイカ割りを楽しんでもらうことができた。 廣瀬：厨房の業者がセントラルキッチンに変わったことで、昼食ができあがったものが運ばれてきている。手作り料理ではなく、毎月利用者とおやつ作りを行っている。 外出に多く出かけていて、昨日は100均に行ったり、先月は初詣にも行ってもらった。 自宅にいると、皆さん外出の機会が少なくなってきていている。いい気分転換にもなっている。 毎月の行事として誕生会、体重測定がある。折り紙教室、カラオケ、マージャン教室は不定期で行っている。フジビュー大学は職員が講師となり、講義を30分程行っている。 看護師が講師となるときは、体調管理の話や医療的な話を聞いてもらったりしている。 イベント入浴では毎月入浴剤を購入し、浴室を飾り付けをしたりして、楽しんで入ってもらえるようにしている。 廣瀬：「さくらだより」を見ていただく。紫で囲っている写真は先年末に行った紅白歌合戦で、合唱をされた。全体での練習はできなかったが、個別の練習で本番を迎えることができた。誕生会での写真では、ご家族に喜んでいただけるようにいい一枚が撮れるようにしている。		
4. 苦情報告	廣瀬：おかげ様で、ありませんでした。		
5. 事故その他報告 要望・助言 意見等	廣瀬：1件あった。今後事故にならないように、対策を考えてもらった。 廣瀬：ここまでで、質問、要望などありますか。 理事長：認知症対応型のデイサービスはどういう風に利用に繋げていっているのか。 廣瀬：門池地区、大岡地区的ケアマネを通して利用に繋がっている。愛鷹地区より1人、1月から利用になっている。今まで利用されていた、一般型を断られてしまった。他の利用者の迷惑になってしまうという理由からだった。今うちのデイでは何もなく過ごしている。		

議題	内容
休憩	<p>認知症対応に慣れた職員が対応し、落ち着いて過ごされている。 認知症の方の接し方は、どのように注意しているか。</p> <p>下田：認知症の方の側について、一緒に行動して外を散歩したり、よく観察するようにしている。 情報収集をたくさんして、周りの職員にも情報共有してもらっている。</p> <p>廣瀬：職員も初めは不慣れだった。一般型から認知症対応型の職員となり、じっくり利用者とかかわることが増えていくことで慣れてきた。今では、7～8人の利用者のところを回り見ていることがある。</p> <p>D：話を聞き感激した。自分の奥さんは、話をしたことを5分経つと忘れてしまう。99% お風呂に入ったことも忘れてしまうので、デイサービスで書いてもらった手帳をふたりで 読んで、お風呂に入ったという印を見て、「お風呂に入ったでしょ」と話をしている。 火・木曜は咲でリハビリを利用している。チューリップに葉をつけて瓶に入れて 飾ったりしている。以前は岡宮のデイを利用していた。細かい作業や陶芸もできた。</p> <p>廣瀬：家でやっていたことなどを教えてもらえると、いろんなことに繋げができるので 教えていただきたい。こちらからも、もっと情報を収集させてもらう。</p> <p>E：77歳糖尿病で、10年近く数値が下がらない状況。二人でいるとワガママや運動不足が 出てくる。第三者の管理が入るといいのでは、と医師に助言をもらい利用となった。 初めは団体行動が気乗りしないようで一か月ほど行きたくないという言葉が出ていた。 話し相手がない、レベルが低い相手みたいになるのではということも言っていた。 デイでジュースを買ってしまったことを手帳で知り、いきさつや会話、指摘されたことなど よく様子が分かった。これからも指摘してもらいたい。縫物もしているとのことだが 忘れてしまっている。</p> <p>中川原：この辺の施設を比較をすると、さくらの職員と利用者で歩く姿をよく見かける。個別対応ができる。門池地区には施設が多くあり、18人未満の地域密着型の施設は岡宮に1件、 岡一色で1件ある。認知症対応型でない施設で集団行動ができない方は、その場所で 浮いてしまう。さくらの認知症対応型施設は必要な施設。在宅が難しいと施設入所 検討開始となる家族にとって、包括のほうで紹介したり相談してもらえるようにしている。</p> <p>ここで、利用者が作ったはちみつレモンを飲んでいただく。飲み物をお出しする時にご主人が この会議にいたことで、大変驚かれていた。</p> <p>理事長：通所介護を始めてから28年たった。当初の利用者は少ない人数で2～3人だった。 現在は高齢化が進んだこともあり、今は人数も増えてきた。最初は経営も赤字だったが 今現在は安定している。</p> <p>C：自分の父も認知症だった。皆様にご迷惑かけているのではと思っていたが、このような 対応をしているんだと、ここまで話を聞いて分かった。柏葉尾の民生委員として思うことは 柏葉尾地区は年齢を重ねると、生活がしにくい。買い物、病院、運転ができないと タクシ一代でお金がかかってしまう。同居していくなくても近くに子供さんがいる方は 頼める方がいるから安心。70歳以上の独居の方や夫婦だけの方、家族がいても日中は 一人になってしまうという方が多くなると思われる。目に見えない生活困窮者が心配だ。</p> <p>B：ここに住んで11年目、自治会長となって困ることが多くなってきている。近所付き合いが 少ない。近所の道路が狭いため、車を止める場所を間違えると、車の行き来ができない。 小学生の通学路で、根方街道を渡る旗振り当番の親御さんが、5～6人しかいないので 旗振り当番を回していくのが大変となっている。シルバーさんを頼むと一回873円かかる。 道路が狭いため、信号も付けられない。</p> <p>O：シルバーさんをお願いすると年間12万ほどかかる。以前のようにボランティアで朝早く できる方が、今はいない。朝早くという条件が大変なようだ。私もシルバーの仕事を 辞めたよ。</p> <p>A：利用者のアンケート読ませてもらった。5人に1人は認知症の方が増えてきている。 皆さんの話を聞いてすばらしかった。山本さんの昔ながらの助け合い、地域では大切だ。 要支援者がいれば行政が責任をもって、残ったところを地域でカバーしていくしかない。 防災を関係づけ、盛り上げていきたい。行政と福祉と一緒に考えてもらいたい。</p>

議題	内容
閉会	<p>A:能登半島のように地域で助け合い精神が大事。皆自分事にならないとわからない。 ボランティアの話で、今は人が集まらない。できる人がやる、無理強いはできない。</p> <p>理事長:ボランティアはポイントや特典を付けたらどうか。無償では難しいから、ボランティアで人を集めるのが大変になっているのではないか。</p> <p>A:有志が集まって移動支援、運転手、車の手配、それに伴う保険などやろうとすると地域で行うのが大変。地域の会社とやったらどうか。</p> <p>理事長:何か協力するのは難しい。</p> <p>A:あきらめちゃいけない。</p> <p>理事長:ヨーロッパやフランスの事例を参考にしてやつたらどうか。</p> <p>A:ライドシェア・オンデマンド、無人化、など行政指導でやってもらいたい。地域に丸投げされてもできない。</p> <p>理事長:戸田・大平は買い物支援・移動支援が始まっている。保険や車の手配等壁はいっぱいある。行政が取り組んでもらわないと。</p> <p>A:できる人が、できることを考える。少しずつ形を作っていく。</p> <p>D:用務員をしていた頃、月に100～500万運ぶ仕事を11年していた。やっている人は皆困っていた。ボランティアはどこで保険かけてくれるのか。話し合って具体的に決めていく。皆で支援していく。</p> <p>廣瀬:このようにちいさなことしかできない。</p> <p>D:それが大事だと思う。</p> <p>閉会にあたり、デイサービスフロアでトレーニングマシンを見学してもらうように声をかけた。地域の方にも使ってもらえるように、計画している。 門池地区のフレイル予防も大事との話も出てきていた。</p> <p>マシントレーニングをご家族が見学された。</p>